

# 地域に根差した下水道資源の農業利用

## 背景

- 肥料原料の価格が高騰する中、下水道資源はリンや窒素等を含む貴重な国産資源として農林水産業への貢献が期待されています。
- 国土交通省は、下水汚泥の処理において肥料としての利用を最優先し、最大限の利用を行う方針を示しています。今後、下水道管理者は下水汚泥の焼却処理や燃料化を行う場合も肥料利用やリン回収等について検討することが求められます。

## 多様な地域関係者との連携

地域において下水道資源の農業利用を推進するためには、多様な地域関係者との相互理解や信頼関係の構築が必要不可欠です。日水コンでは、地域の関係者と連携し、下水道資源の農業利用に関する取組を推進しています。

- 調査・研究結果を関係者に報告する会議の企画・開催支援を行うほか、異分野・異業種の団体や民間企業と連携するなど、多様な地域関係者との意見調整を行います。
- 農業利用者が安心して下水道資源を活用できるように、下水汚泥由来肥料等に含まれる重金属など成分に関する正確な情報発信方法について提案します。
- 下水汚泥の肥料利用に関して、最適な肥料利用形態(コンポスト・回収リン等)の検討、肥料化施設の設計、ビニールハウスの設計など、施設整備への支援も可能です。



汚泥肥料で栽培した茶の木



肥料化施設



ビニールハウス

## 最新技術の調査研究

日水コンでは、下水道資源の農業利用の最新技術に関して、自治体・研究機関・大学・高等専門学校等と共同研究を行っています。

- 下水道応用研究(2022年～2023年)  
～山形大学、秋田工業高等専門学校との共同研究～  
下水処理水を飼料用米の灌漑用水に利用することで、従来と比べて温室効果ガス(GHG)の排出量が削減される場合があります。日水コンは水田からのGHG排出量定量化モデルを構築し、最適な灌漑条件の検討を行っています。
- 下水汚泥資源の活用促進モデル実証(2023年～2026年予定)  
～国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構や鹿児島工業高等専門学校等との研究コンソーシアム～  
供給・製造・流通・生産者と共に農地の環境影響評価、肥効評価、茶など鹿児島県下栽培作物への適正施用技術の開発と実証により、新下水汚泥肥料の安定供給体制を構築します。日水コンは各種PRイベント開催を通じて肥料と作物の普及に寄与します。

## 広報、流通、販売の支援

日水コンでは、関係機関と連携し、“じゅんかん育ち”の流通・販売に関する支援や広報活動を行っています。

- 十勝ビストロ下水道プロジェクト(2020年～)  
十勝地方の地域活性化について、地元の農業法人等との意見交換から展開したプロジェクトです。毎年のイベントには、産官の下水道関係者をはじめ学識経験者、農業従事者、議員、銀行関係者などが幅広く参加しています。下水道資源の農業利用に関する勉強会に加え、地域の生産団体に赴き下水道資源とのコラボレーションを模索し、地元の農業法人と共に“じゅんかん育ち”の各種取組を実現させています。

### これまでの経緯

イベントを通じ地元の農業法人が下水汚泥肥料を確保(2021年)  
とうもろこしの栽培に成功・販売(2022年)  
ふるさと納税返礼品として登録(2023年)

地域に寄り添う活動を!

